

2016.5.17 すばる小委員会 議事録

日時：2016年5月17日（火）午前11時より午後3時

場所：国立天文台三鷹すばる棟 TV 会議室（ハワイ観測所、東京大学、京都大学、愛媛大学と Zoom 接続）

出席者：青木和光(一部退席)、柏川伸成、宮田隆志(午前中のみ)、吉田道利（以上三鷹）
岩室史英（京都大学から Zoom 接続）
有本信雄、岩田生(一部退席)（ハワイ観測所から Zoom 接続）
成田憲保(午前中のみ東京大学から Zoom 接続）
鍛冶澤賢(14:30～15:00のみ愛媛大学から Zoom 接続)

欠席：大朝由美子、大橋永芳、片坐宏一、嶋作一大、高田昌広、田中雅臣、村山卓
書記：吉田千枝

===今回の A/I 及び議論サマリ===

- ・ S17A、S17B に所長裁量時間を使って EAO 枠 3 夜を設けることになり、すばる TAC が審査する。EAO 側から希望のあった TAC への observer 参加は認めない方針を伝えることにした。
- ・ すばるとの連携に関する韓国コミュニティの意思統一ができていない様子。必要に応じて、在韓国、台湾、中国の日本人研究者に、各国の状況について問い合わせる。
- ・ 6/15 の国際共同運用に関する WS でコミュニティにおける議論を深め、すばるからの具体提案で交渉していく、ということをコミュニティに了承して頂く必要がある。SAC でも常に継続審議していく。
- ・ 総研大アジア冬の学校とすばるの学校を合わせて台湾で開催する方向で準備を進める。ASIAA との共催についても検討する。
- ・ 検出器貸出検討委員会の委員候補者を選び、次期 SAC への申し送り事項とした。
- ・ 欠席の委員が多いため、次期 SAC 委員候補者については 6 月の SAC で決定する。
- ・ NAOJ 執行部からの要請があり、スペイン IAC との連携を模索している。

[報告事項]

1 所長報告

所長：

前回の SAC の後、特に大きな動きはない。5/1-5/4 のニースでの CFHT UM に参加した。ミラーハッチの修理については現在三菱が精査中で、それを受けて第三報をウェブに出す準備をしている。

岩田副所長：

ミラーハッチは 6 月に一回目の修理、8 月に 2 回目の修理を行う予定だったが、6 月には行わず 8 月に修理を行うことになりそうだ。6 月のダウンタイムはキャンセルし、HSC SSP 観測・キュー観測、MOIRCS の試験観測を行う見通しだ。5 月末頃にもう少しはっきりした予定が分かると思う。

[議論事項]

2 国際共同運用 WS について

2.1 EAO との共同運用具体案について

4 月の EAO ボード会議の後、EAO 所長の Paul Ho 氏からすばるとの連携に関する具体案が来ているが、まず 6/15 の WS でコミュニティの意見を聞いてからと考えて交渉は保留している。4 月の EAO ボード会議ですばるからセメスタ当り 3 夜 EAO に提供して欲しいと要請されたので、今後の EAO との連携を見据えた上で S17A・S17B については了承した。この中には NAOJ は含まれない。審査はすばる TAC で他のプロポーザルと一緒にやる。良いサイエンスに時間を割り当てるべきだという思想から、EAO メンバー国が各々 1 夜ではなく、スコアで上位 3 夜まで採択する形でよいと聞いている。

また、TAC に EAO から 1 名をオブザーバーとして出したいと言われている(意思決定には加わらない)。

SAC 委員長：共同利用夜数からでなく、所長裁量時間から出すのか？

所長：そうだ。プロポーザルに EAO 枠かどうかチェックする欄を設けてはどうか。

C：(韓国・台湾・中国の研究者は) この枠に関係なく直接応募してもよいのか？

所長：これらの国・地域からのプロポーザル数は多くは無いので、当面よいのではないかな？ いずれは EAO 枠だけを認めるようになるだろう。

C：日本も EAO 国だが、日本人は別扱いになる。

SAC 委員長：EAO 枠に応募できるのは、EAO の国にいる研究者だが、中国・韓国・台湾に居る日本人は含むのか？

C：含まれると思う。

所長：EAO 枠は明確に定義して公募要項に書く必要がある。

C：やってみないとどういう事態が起こるかわからない。

C：TAC は confidential な会議なので、observer を認めないのが普通だ。TAC へのオブザーバー参加は断るべきだ。

所長：了解した。

【結論】 EAO 枠として S17A と S17B に所長裁量時間から 3 夜提供することになったが、EAO 側が希望した TAC へのオブザーバー参加は認めないこととした。

2.2 KASI との交渉の進捗について

所長：KASI の交渉窓口となっている N. Hwang 氏が来所し、EAO とすばるが連携する場合、KASI はすばると連携しないというコメントがあった。KASI の EAO 担当は他の人で同一歩調でないようだ。

C：EAO 枠のほかに KASI 枠があってよいが。

C：韓国内の意見をまとめていただく必要がある。

所長：当面は KASI と個別に連携しつつ、将来は EAO に合流する方向になると良いと思う。

KASI 側から、もし連携するとした場合に、どのような形ですばるに人を送るかを検討して貰っている。ただし、KASI との連携が本年度中に実現するかどうかはまだ見通しが立っていない。

SAC 委員長：2017 年は所長裁量時間を使って EAO 時間（と KASI 時間？）を設けるが、その後増えていくのであれば（共同利用夜数を使うことになり）、コミュニティに諮る必要がある。

岩田副所長：韓国の天文学の状況は、コミュニティとしては小さいが世界のいろいろなプロジェクトに加わっている。大学の研究者が KASI の状況や方針を必ずしもよく理解していないというコメントも聞いた。コミュニティの意思統一をどう進めるのか、こちらからはよく見えない。

所長：誰と交渉すべきか、対応が難しい。

SAC 委員長：韓国内の若手研究者は本当にすばるを使いたいと考えているのか？在韓国の日本人研究者に（6/15 の国際共同運用 WS 等で）話を聞いてみてはどうか？

【結論】 連携協議に関連した韓国コミュニティの状況がつかめないが、引き続き協議する。来月の WS にあわせて在 EAO（韓国、台湾、中国）の日本人研究者に、すばるのニーズを聞くことにした。

2.3 オーストラリアとの連携の見通しについて

所長：

AAL の chair 宛に連携協議を行いという台長レターが送られたことは前回報告したが、先週その返信があり、「興味があるので 6/15 の WS に来たい」とのことだった。6/15 は日本語で国内コミュニティの意見を伺う場なので、丁重にお断りした。WS 後に先方と交渉することになると思うが、先方が希望する年 30 夜規模の時間交換となると我々には十分な夜数がない。いきなり多くの夜数を交換するプランは現実的でないだろう。文科省から国際共同運用を進めるように強く言われているが、その背景は我々が TMT 建設に舵を切ったことにある。

岩田副所長：オーストラリアはサーベイに大変興味を示しているが、すばるの運用パートナーとなっても、PFS SSP のデータにすぐにアクセスできるとは限らない。

所長：8 月頃の PFS steering committee で、「すばるのパートナーに、PFS SSP データへのアクセス権を認めていただきたい」と理解を求めつもりだ。

C：難しい交渉だ。

SAC 委員長：6/15 の WS の獲得目標は何か？

岩田副所長：国際連携の協議はこちらの具体案を出さなければならない段階なので、今後このプランで交渉していく、ということコミュニティに了承して頂く必要がある。

SAC 委員長：その点をコミュニティが理解しているか心配だ。

所長：パートナーを加えたすばるボードや TAC 等、観測所から国際共同運用の原案を出す必要があるので、国際運用の経験豊富な D. Simons 氏(CFHT 所長)を招いているいろいろ伺う予定だ。また、5/24 の所内シンポジウムでも協議する。

SAC 委員長：今年度中に何か文科省に国際共同運用の形を示す必要があるのか？

所長：文科省は EAO 所長とハワイ観測所長が連携合意したことを評価しているが、来年は具体案を示すように言われている。パートナーに供出できるすばるの望遠鏡時間は少ないので、夜数は減らして連携を開始するのがよいと思う。

【結論】 すばるの共同利用夜数が限られている中で国際共同運用の検討を進めていかなければならない状況を 6/15 の WS でコミュニティによく理解していただく。

2.4 カナダとの連携の見通しについて

所長：

6月初めにカナダの天文学会に所長・岩田副所長が行き、Gemini-Subaruの合同セッションを行う。「すばるは望遠鏡時間がもうないでしょう？」と言われたときどう対応するか？カナダは2021年まではGeminiパートナーなので、その後の連携ということになるか。カナダの交渉窓口はどこになるか？

岩田副所長：NRC(National Research Council)だ。

SAC委員長：状況が錯綜しているが、国際共同運用については常に継続して議論していく。

3 すばるの学校・体験企画・観測実習・アジア冬の学校について

3.1 観測実習について

所長：

先日今年度のすばるの学校等の教育的企画について所内で打ち合わせた。

総研大の観測実習は12月以降にUHヒロ校の学生の参加を認めて一緒に行く予定だ。

岩田副所長：

去年からUHヒロ校の学生についてすばるの時間を使って何か貢献できないか検討していたが、今年度総研大実習に学部生2・3名に参加してもらおう。UHの学生にも観測・解析の一部を担当してもらい、主体的な参加になるようにしたい。総研大の学生にとっても、米国の学生と一緒に観測する良い機会になる。

所長：総研大側も是非一緒に実施したいとのことなので、今年をキックオフとする。

3.2 アジア冬の学校とすばるの学校について

所長：観測所ではHSCの解析講習会を開催予定だが、それとは別にすばるの学校は実施したい。また総研大のアジア冬の学校も今年はすばるの担当だ。すばるの学校を台湾でやりたいと考えてるので、台湾で両方をマージして開催してはどうか？学部学生の観測体験企画は例年通り行う。

青木委員(すばるの学校担当) :

すばるの学校は学部生対象でよいのか？学部生対象の場合、大学が休暇中の9月が歓迎されるが、総研大のほうは今から準備すると冬の開催になる。総研大はアジアへの貢献を要請されているので、台湾で開催するのもよいが、国内の学生が参加しづらくなる。何らかの対応が必要だ。

Q : 装置は何を取り上げるのか？

A : これから検討するが HSC 以外だ。

SAC 委員長 : 三鷹のマンパワーを考へても両方をマージして実施したほうがよい。

所長 : ASIAA と共同開催してはどうか？在台湾の日本人研究者に打診してみるとよい。

SAC 委員長 : 青木さん、この件よろしくお願ひします。

【結論】 アジア冬の学校とすばるの学校を合わせて台湾で開催する方向で準備を進める。

4 検出器貸出検討委員会の委員について

SAC 委員長 :

この件について高遠さんと話したが、実際に検出器の貸し出しをするのは年末なので、SAC 改選後の委員選出でよいのでは？とのことだ。

岩田副所長 : 検出器の需要の調査は、光天連への回覧を検討している。

C : 次期委員会がすぐ検討委員を選出するのは難しいので、候補者を推薦しておいて、次期委員会への申し送り事項としてはどうか？

【結論】 検出器貸出検討委員会の委員候補者を選び、次期 SAC への申し送り事項とした。

5 次期 SAC 委員候補者の推薦について

SAC 委員長 : 光天連から次期 SAC 委員候補者の推薦を頂いた。本日は欠席の委員が多いので、次回の検討とするか？光赤外専門委員会も現在改選中だ。

【結論】 次期 SAC 委員候補者については6月の SAC で決定する。

5 NAOJ 執行部からのスペインとの共同事業の要請について

所長 :

研究連携主幹の郷田氏から連絡があり、スペイン IAC から是非 NAOJ と共同事業をやりたい

との申し入れがあった。すばるとの連携をという希望があるので、双方で世話人を決め、TV 会議で打ち合わせを重ねた後に、カナリー諸島で対面の協議を行い、どのような活動を行うかを決める。当面は郷田氏に調整をお願いすることにした。すばるとしてはすばると GTC の観測成果を議論する WS を IAC で行いたいと考えている。

C : 以前 HDS を GTC に譲るという話があったが、立ち消えになった。

C : GTC に観測に行っている人はいる。

所長 : 上海での日中合同 WS のように宇宙論・銀河・AGN・Archeology・系外惑星の各分野ごとに 2 名程度、計 10 数名の方に行っていただき、キックオフの会合を行った後は、二国間等の財源を使って定期的に行ける仕組みを作り上げて行きたい。

【結論】 GTC との合同 WS を現地で開催するなど、スペインとの連携を検討する。

6 S16B TAC 報告 (鍛冶澤 TAC 委員長)

TAC 委員長 :

S16B は蒸着のためのダウンタイムを予告していたせいか、申請課題は前期に比べて 3 割程減った。ノーマル課題の(暫定)採択夜数は前期と比べると半数程度だが、観測所からの要請を受け、蒸着が全く行えない場合も想定してバックアップ課題を選定した。インテンシブは枠を拡大したせいか応募が増えた。Gemini コミュニティからの直接応募が 1 件あり、これは受け付けずに時間交換枠を通すよう要請した。Keck 提案の倍率はすばる提案と同程度までに下がった。今回フィルター課題(悪条件のとき実施するキュー課題)の公募を初めて行い、TAC は提案のチェックを依頼されたが、特に問題なものはない。(バックアップ課題を含めない)倍率は件数ベースで約 5 倍、夜数ベースで 7-8 倍になる。夜数が少ないので、1 件当たりの採択夜数は少し減っている。

所長 : Gemini/Keck 課題の全体の中での順位がわかるとよい。Gemini と話すときに先方の理解が得やすい。

岩田副所長 : 今回 HSC キュー課題の採択が少ないようだが、採択課題が少ないとキューはうまく回らないので TAC で考慮していただきたい。

C : クラシカルで採択された人に協力を求めることはできないのか？

C : SSP はキューに入れられるだろう。

岩田副所長 : SSP を入れてキューらしくできるように早急な準備が必要だ。S18A までには HSC の観測はキュー中心に移行したいと考えている。

TAC 委員長 : time critical な提案でなければ、提案者は観測ができさえすればよい。

7 次回日程確認

6/22(水) SAC 終了後、15 時～三鷹で懇談会を行う。

SAC 委員長：三鷹の人にはすばるの紹介はいらないので、懇談をどのように進めるか？

C：マウナケアの将来について議論してはどうか？

所長：なぜ UM に来ないのか聞いてみたい。

SAC 委員長：意見を是非述べたいと言っている人もいるようだ。

**** 資料 ****

- 1 光天連からの次期 SAC 委員候補者推薦リスト
- 2 TAC 報告
- 3 4/26 SAC 議事録改訂版
